

浦島伝説

平成31年2月25日

第37号



夢の「玉手箱」を探そう!

2月22日、日本（JAXA）の探査機はやぶさ2が、地球から約3億4000万km離れた小惑星「リュウグウ」への着陸を試み、成功しました。「リュウグウ」には太陽系が誕生した46億年前の痕跡がそのまま残っているとされ、採取した石や砂などの分析により、太陽系や生命の起源の解明に近づくことが期待されています。「玉手箱」のあく瞬間が、早くも待ち遠しいものです。



会見を見ながら、快拳の裏側にある二つのキーワードが心に残りました。それは、「チームワーク」と「しつこさ」です。

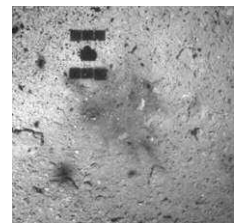
「技術力はもちろん、はやぶさ2のチーム力を特に強調したい。決して仲良しというわけではなく、磨きあって、お互いにたたき合って成長してきた。（津田プロジェクトマネージャ）」
 「成功したのは、はやぶさ2のチームのしつこさが実ったと思います。しつこいぐらい訓練し、しつこいぐらい議論し、しつこいぐらいの準備をした……。 （佐伯プロジェクトエンジニア）」

初代はやぶさが、満身創痍の帰還で感動を呼んだのは2010年。一方で、通信の途絶やエンジンの故障などトラブルが相次ぎ、多くの教訓を残したのも事実です。はやぶさ2ではその失敗が生かされました。

それでも、着陸までの道のりは予定通りではありませんでした。想定以上に大きな岩が多いことが判明したため、昨年10月に予定されていた着陸は延期を余儀なくされました。安全に降りられる場所を探した結果、当初は直径100mの範囲に降りる想定だったところを、直径6mと極めて狭い場所が着地点として決まりました。「甲子園球場のどこかに降りれば良かったが、マウンドに降りなければならなくなった（JAXA）」という例えが、その難しさをよく表しています。

「玉手箱」は、数え切れない失敗と、それを乗り越えるチーム力があって初めて手に入れることができるものなのかもしれません。

さて、皆さんはもう「玉手箱」を見つけましたか。「NEVER ENDING DREAMS（夢の玉手箱はここにあり）」のスローガンの下、頑張ってきた1年間の日々もまた、全ての経験が、失敗も含めてぎっしり詰まった、あなただけの「玉手箱」にほかなりません。



The collage features several items:

- Top Left:** A newsletter cover for '浦島伝説' (Issue 2) with the headline '夢と希望にあふれる学校' (A school full of dreams and hope).
- Top Middle:** A poster for '誇り高き体育祭〜堂々〜' (Proud Sports Festival) with a photo of students in traditional festival attire.
- Top Right:** A photo of a school choir performing on stage.
- Middle Left:** A poster titled '浦島伝説 今年こそ！夢の勇気が明日を渡る' (This year! Dream courage crosses tomorrow).
- Middle Right:** A photo of a school band performing.
- Bottom Left:** A list of activities and goals for the year, such as '部活動は3年続けることが原則' (Principle of continuing club activities for 3 years).
- Bottom Center:** A photo of a large group of students in a field.
- Bottom Right:** A newsletter cover for '浦島伝説' (Issue 4) with the headline '“人として、どう生きるか”を学んだ 浦島デーで12月スタート!' (Learned 'how to live as a person' - 12th month start with Urashima Day!).